

重層的支援体制整備事業計画 進行管理シート

基本項目	分野	No.	事業	担当課	社協	内容	R7評価	R7実施内容及び課題	R8実施予定
包括的相談支援事業	介護	1	地域包括支援センター事業	高齢福祉課 地域包括支援センター		高齢者に対し、総合相談支援、包括的継続的ケアマネジメント、権利擁護等の支援を実施します。	A(予定通り進行)	・ケースに応じて医療・福祉・介護サービスの利用に繋ぎ、継続的な支援を実施した。 ・要支援1・2、事業対象者への適切なサービス提供のためのケアマネジメントを実施した。 ・虐待対応、予防活動を実施した。	・引き続き適切な相談支援、権利擁護等の支援を実施していく。
	障害	2	基幹相談支援センター事業	社会福祉課		障がい者等に対し、障がいの種別に関わらず、総合的・専門的な相談や情報提供・助言、既存の障害福祉サービス事業所等との連携調整などを行います。	A(予定通り進行)	・支援会議に基幹相談員が参加し連携を図った。 ・自立支援協議会、各部会のを開催。 ・地域生活支援拠点について、事業所を対象に地域生活支援拠点の全体会を開催した。また体験の場の検討に向けてアンケート調査を行った。	・自立支援協議会、各部会を開催。 ・地域生活支援拠点全体会の開催 ・「体験の場」について検討を行う。
	子育て	3	こども家庭センター事業	こども家庭センター 子育て支援課		全ての妊産婦、子育て世帯、こどもへの一体的な相談支援を行い、母子保健、児童福祉両部門の連携、協働を深め、虐待への予防的対応から個々の家庭に応じた支援の切れ目のない対応など、相談支援体制の強化を図ります。	A(予定通り進行)	・要保護児童・DV防止対策地域協議会 代表者会議、実務者会議(年4回)を開催した。 ・必要に応じて個別ケース会議を随時開催した。 ・個々のケースにサポートプランを作成し適切な支援を実施した。 ・母子保健、児童福祉両部門が連携し、相談支援体制の強化が図れた。	・来年度も同様に会議を継続して実施。 ・ケースの進捗を管理しながら、関係機関の連携の強化と適切な支援を実施していく。
	生活困窮	4	生活・就労サポートセンター事業	社会福祉課(委託) 恵那市社会福祉協議会	○	生活困窮者に対し、複合的な課題に包括的・一元的に対応する窓口を設置し、相談を受け付けます。	A(予定通り進行)	【市・社協】 ・福祉センターと市役所にて相談窓口を実施。生活困窮者自立支援事業の対象外の方へは適切な相談窓口への紹介やつなぎを行った。 ・本年度より、生活困窮支援会議を設置し、適正な支援につなげるための協議を行った。 【社協】 ・フードパントリーを年3回実施した。 ・なんでも相談と同日によりみちカフェを開催した。(毎月20日)気軽に相談できる環境を整えた。	【市・社協】 ・来年度も福祉センターと市役所で相談窓口を設け、市民が相談しやすい体制を実施する。 ・重層的支援体制整備事業や関係機関と連携を行い、包括的な支援を行っていく。 【社協】 ・本年度に引き続き、フードパントリーを年3回実施する。よりみちカフェも毎月実施する。敷居の低い相談窓口として対応していく。
	総合	5	福祉総合相談事業	社会福祉課		高齢、子育て、障がい、生活困窮等、属性を問わずすべての相談に対応し、各相談支援機関へ確実につなげます。	B(予定を変更または修正して進行)	・総合的に相談を受け止め、マネジメント機能の相談窓口として、総合相談で長くケースを持つことのないよう、早期に適切な支援機関へつないだ。(1月末現在165件) ・複合的、複雑化な相談については、多機関協働へつなぎ支援会議により課題の整理や支援方針の決定、支援の役割分担を行った。 ・相談件数が多いことが成果ではないことを再認識し、利用者にとってよりよい支援につながることを、既存の相談窓口や制度が十分に活かされることが第1である。	・高齢、子育て、障がい、生活困窮の4本柱による既存の相談窓口を十分に活用されるようにマネジメント機能を果たすことを意識して実施する。
	総合	6	福祉なんでも相談事業	恵那市社会福祉協議会	○	地域の身近な相談窓口として、生活の中のさまざまな問題や悩みごとなどの相談に応じています。	A(予定通り進行)	・「えなえーる」にて福祉なんでも相談を月1回開催した。身近で敷居の低い相談窓口として開催している。(1月末現在8件) ・内容を精査し適切な相談窓口へのつなぎや、支援が必要な方へ継続的な相談を実施している。	・来年度も継続的に毎月開催し、相談しやすい窓口の運営に努める。

基本項目	分野	No.	事業	担当課	社協	内容	R7評価	R7実施内容及び課題	R8実施予定
参加支援事業	総合	1	参加支援事業	社会福祉課(委託) 恵那市社会福祉協議会	○	狭間の個別ニーズに対応するため、本人やその世帯の支援ニーズと地域社会資源とのマッチングと社会参加に向けた支援のためのメニュー作りを行います。	A(予定通り進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と支援者との信頼関係を築いていくことを主な目的とした支援を実施。散歩、同行支援、ボランティア活動など、利用者の負担の少ないメニューは受容性も高く、個別に配慮した支援として実施できた。(事業実施件数:12月末現在 4件) ・利用者と支援者との関係性が成熟してきたケースでは、次のステップを検討していく段階にある。魅力あるメニューを提示できるまでには時間を要することを改めて実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との関係性が成熟してきたケースでは、興味、関心、ニーズを上手く紐づけながら、社会参加につながるメニューの作成を実施していく。 ・個に最適化されたメニューが他のケースにも準用できるよう、一般化できるエッセンスは抽出し、他のケースにも準用できるよう会議体や研修、ミーティング等を通じて共有を図り、個々のメニュー作りのスキルアップを行っていく。 ・既存の社会資源の有効活用についても引き続き検討していく。
	総合	2	個別支援型参加支援事業	社会福祉課 恵那市社会福祉協議会	○	課題を抱える当事者の事例に合わせて、その課題を解決する地域資源につないだり、新たな居場所を作ります。	A(予定通り進行)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の社会資源を個々のケース毎に活用することができている。 ・利用者の『参加』へのモチベーションを高めることが難しいケースが多く、既存の枠組に囚われない柔軟な発想で、魅力的なプランを提示する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーによる研修等の影響があり、事業への理解、浸透も市内では進んでおり、連携や協力を得ながら、既存の社会資源のパフォーマンスを最大化していきたい。 ・参加支援に活用できそうな資源、支援方法等についてチームで共有し、アイデアの蓄積を行っていく。

基本項目	分野	No.	事業	担当課	社協	内容	R7評価	R7実施内容及び課題	R8実施予定
地域づくり事業	介護	1	地域介護予防活動支援事業	高齢福祉課		介護予防リーダーが地域の高齢者が利用しやすい集いの場を立ち上げるための支援を行います。	A(予定通り進行)	・エナジーバード体操(※)研修会を開催した。介護予防にかかわる他機関の関係者やサロン関係者などの支援者や、自身の介護予防のため参加される方など、多くの方が受講された。 ・エナジーバード体操(※)研修会に参加された方も地域の介護予防の指導者になれる仕組みを作った。 (※)恵那市が介護予防を目的に作成した独自体操	・エナジーバード体操研修会を継続して開催し、地域の介護予防の指導者になれる方を育成し増やしていく。
	介護	2	生活支援体制整備事業	高齢福祉課		第1層・第2層協議体を設置し、住民主体で包括的に地域課題を把握し、解決を試みる体制を構築します。	A(予定通り進行)	・第1層協議体は年4回の会議と支え合い活動団体情報交換会を開催し、参加者の情報交換等を行った。 ・第2層協議体は福祉懇談会・福祉合同会議を開催した。	・第1層協議体は本年度事業を継続して実施していく。また、あわせて既存団体の周知活動支援等を行う。 ・第2層協議体も本年度事業を継続して実施していく。
	障害	3	地域活動支援センター事業	社会福祉課(委託)		障がいのある人が通い、創作的活動や生産活動の提供、社会との交流の促進等の便宜を図ります。	A(予定通り進行)	・サロン活動やお仕事体験に加え、市役所での障がい者週間でスターバックスコーヒーとコラボしてコーヒーの配布などを実施した。 ・障がいのある人が、社会との交流や社会参加が実施できる機会と場の提供を行った。	・社会との交流や社会参加の機会の中から、次の支援(事業所への通所や就労)へつなげるための支援体制の強化を実施していく。
	子育て	4	子育て支援拠点事業	子育て支援課 こども元気プラザ		子育ての負担感等の緩和を図り、安心して子育てができる環境を整えるため、いつでも気軽に寄れる親子の交流の場としての子育て支援拠点を開設します。	A(予定通り進行)	・子育て支援拠点として、こども元気プラザ(月～土)、山岡子育て支援センター(月水金)の2カ所の拠点を設置。その他、地域のこども園8ヶ所に出向いて子育て支援センターを開催した。 ・利用者からの相談に適切に対応できるよう、県の利用者支援研修を受講し職員体制の強化に努めた。	・子育てなど不安や悩みを相談できる身近な交流の場として、今後も周知活動を継続的に進めていく。
	生活困窮	5	生活困窮者支援等のための地域づくり事業	社会福祉課(委託) 恵那市社会福祉協議会	○	ニーズ・生活課題の把握、住民主体の活動支援・情報発信、地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行います。	A(予定通り進行)	・居場所やコミュニティを定期的実施している団体と横の連携が図れるように努めた。 ・市内各地区で実施されているサロンなどを中心とした住民主体の活動に訪問、参加し、ニーズ・生活課題の把握から住民主体の活動支援や情報発信を実施した。 ・地域福祉懇談会や福祉合同会議など、地域の活動者から課題や意見を抽出する機会を意識的に持ち、地域コミュニティ形成の足がかりとした。	・令和7年度の内容を継続しながら、ニーズや生活課題に対応できる仕組みづくりを多様な担い手と連携し引き続き検討していく。 ・地域住民だけでなく企業と連携した取り組みを図るため、企業の地域貢献活動がニーズや生活課題に対応できる仕組みづくりを事業として検討していく。
	総合	6	地域の支え合い活動応援事業	高齢福祉課		「無理のない持続可能な仕組み」の構築を図るため、「ちよいぽら」活動に応じた有償支援を検討します。	A(予定通り進行)	・恵那市生活支援協議体事業の第1層の主催で、支え合い活動団体情報交換会を開催した。地域の団体同士での情報交換を通して、地域のニーズや課題の把握にもつながった。	・本年度事業を継続して実施していく。また、あわせて既存団体の周知活動支援等を行う。
	総合	7	地区担当制の見直しと地区担当会議	社会福祉課 地域包括支援センター		単位民児協、地域福祉懇談会、自治区ケア会議など地域づくりに向けた地区担当を市職員で配置します。	A(予定通り進行)	・地区担当者を位置づけることで、地域との連携が強化しつつある。 ・地域福祉の取組の充実、また課題の把握につながっている。	・人事異動等に伴う地区担当の入れ替わりもあるため、R7の取組や課題を次期地区担当へ確実に引き継ぎ、地域福祉を充実していく。

基本項目	分野	No.	事業	担当課	社協	内容	R7評価	R7実施内容及び課題	R8実施予定
多機関協働事業	総合	1	支援会議	社会福祉課 恵那市社会福祉協議会		地域で困りごとを抱えているが、相談までつながっていないケースの情報共有を行い、支援方針を共有するための会議を開催します。	A(予定通り進行)	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度は、毎月定例の支援会議に加え、緊急性が高く、早期に対応しなければいけないケースやより深く話し合いを重ねる必要があるケースについて、コアメンバーが集まり、個別で行う支援会議を随時開催した。 定例、個別の支援会議を重ねることで支援方針や支援者の役割分担の明確化が進んできた。(支援会議開催回数:12月末時点:31回) 市、社協以外の支援関係機関への支援会議の取組や重要性の認知を広げ、更なる一体的な支援の必要性が求められる。 	令和7年度に引き続き、個別支援会議を積極的に開催し、より困難なケースについてはアドバイザーが参加する個別支援会議を開催していく。また、支援会議で決まった支援方針や役割分担について、各支援機関でその重要性を理解していただくよう働きかけていく。
	総合	2	重層的支援会議	社会福祉課(委託) 恵那市社会福祉協議会	○	支援会議で話し合ったケースの支援プランの適切性の協議、終結時等の評価を行います。また、社会資源の充足状況の把握と開発にむけた検討を合わせて行います。	A(予定通り進行)	<ul style="list-style-type: none"> 重層的支援会議で実施する、プランの検討及び精査、モニタリング、再プランに至るまでの流れを明確にするため、フローチャートを作成した。 プラン作成に当たっては利用者本人の意思を尊重し、一緒に考え、作成するなど丁寧な対応を意識して行った。(重層的支援会議開催回数:12月末時点:9回) 	<ul style="list-style-type: none"> プランの作成に至っては、個性を意識したプラン作成を徹底する。 支援会議と同様、緊急を要したり短期間でプランが変わる利用者に対しては、随時、個別重層的支援会議を開催し利用者目線での支援を行っていく。(R7に作成したフローチャートを基に) 支援が安定してきたケースについては終結時の確認も行っていく。 様式の活用方法についても統一化を図り、恵那市の重層的支援会議をより明確なものにしていく。
	総合	3	顔の見える福祉勉強会	社会福祉課(委託)		多職種の専門職が勉強会を通して互いに「顔の見える関係」を作り、スキルアップを図ります。□	A(予定通り進行)	<ul style="list-style-type: none"> 支援会議開催日に合わせて、支援者への勉強会(研修会)を3回開催した。 東濃地区の高等学校教諭(教育相談または生徒指導担当)が集まる会議で重層的支援体制整備事業の講演を行い、制度の周知と高校との連携に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度もテーマを検討しながら、スキルアップのための勉強会(研修会)を実施。 勉強会(研修会)を通して、関係機関の連携を強化する。
	総合	4	庁内検討会議	社会福祉課		ミーティングメンバー会議(係長級)、部課長会議を随時開催し、事業の推進に関する各種調整を行います。	B(予定を変更または修正して進行)	<ul style="list-style-type: none"> ケースがより複雑化しているものに対して、各担当と係長を交えた支援会議を個別で開催したり、必要に応じて部課長を交えて開催することで、事業の推進と連携強化を図った。 	重層的支援体制整備事業の事業調整や協議していく。
	総合	5	市福祉部局と社協との定例ミーティング	社会福祉課 恵那市社会福祉協議会	○	市福祉部局と受託者である社協との間で、幹部クラス・担当クラスの定期ミーティングにて情報共有・意見交換・事業研究を行います。	A(予定通り進行)	<ul style="list-style-type: none"> 月1回市、社会福祉協議会の課長級以上と定例ミーティングを行い、各福祉分野における情報交換、共有を行い、事業の展望について検討している。 	市、社会福祉協議会で連携を図り地域福祉の推進と充実を実施していくため、今後も同ミーティングを継続していく。

基本項目	分野	No.	事業	担当課	社協	内容	R7評価	R7実施内容及び課題	R8実施予定
アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	総合	1	アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	社会福祉課(委託) 恵那市社会福祉協議会	○	社協が持っている地域とのつながりや強みを活かし、潜在的ニーズの把握や支援のつなぎを届ける伴走型の支援を行います。	A(予定通り進行)	・支援対象者へ直接つながることが難しいケースは家族からつながりをつくるため、家族との面談を不定期ではあるものの継続して実施し、アセスメントの見直しを随時行った。(事業実施件数:12月末現在2件) ・アドバイザーによる研修や、ケースのモニタリングを通じて、支援対象者へのアプローチやアセスメントの質が向上してきている。	・引き続き支援対象者への働きかけを継続し、丁寧にアセスメントを続けていく。 ・気長に変化や出来事の発生を待ち、変化が発生した時には蓄積したアセスメントを基に支援対象者等へ慎重なアプローチを行っていく。
	生活困窮	2	生活困窮者へのアウトリーチによる自立相談支援強化事業	社会福祉課(委託)		社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする生活困窮者に対し、アウトリーチ支援により自立支援を強化します。	B(予定を変更または修正して進行)	・生活困窮に関わるアウトリーチ支援を実施し、就労に向けての助言や困りごとの把握を行った。 ・これまで開催していたアウトリーチ支援会議から生活困窮者支援会議へ協議の場を変更した。アウトリーチから次の支援(生活困窮者の自立支援)へつなげ利用者の自立を促すための効果を見込んでいる。	・アウトリーチ支援のアセスメントから、次の支援へつなげていけるように取り組む。

A(予定通り進行) 19事業
 B(予定を変更または修正して進行) 3事業
 C(予定通り進行していない) 0事業
 D(その他) 0事業
 22事業